

ま え が き

埼玉県衛生研究所は昭和 28 年 4 月に当時の大宮市吉敷町 1 丁目に開設され、今年で 60 年になります。その後、現在のさいたま市桜区上大久保の地に移転したのは昭和 47 年 5 月でした。さらに、今年度末までに深谷支所を統合し吉見町旧吉見高校跡地へ移転の予定で、通常業務を継続しつつ鋭意取り組んでいるところです。

この間、JICA/埼玉県ネパール・プライマリ・ヘルスケア・プロジェクトへの参加や、インフルエンザ (A/H1N1, 2009) の発生・流行への迅速な対応、病原性大腸菌による大規模な集団食中毒の発生などがありましたが、とりわけ、平成 23 年 3 月の東日本大震災とそれに引き続く東京電力福島第一原子力発電所の事故と放射能漏れによる環境中や食品中の放射能測定は現在も重要な継続課題であります。さらに、昨年の浄水場におけるホルムアルデヒド汚染や、今年度に入ってから頻発するノロウイルスあるいは毒キノコによる食中毒事例や脱法ハーブなどからの違法成分の検出など、衛生研究所の果たす役割はますます重要になりつつあります。

なお、今年度の「課題と目標」としましては、①埼玉県衛生研究所の移転業務の推進、②感染症情報センター機能の充実・強化、③食の安全・安心対策の推進、の三点を掲げ取り組んでいるところです。中でも先に述べました移転関連業務は昨年度から本格的に取り組んでいるところですが、今年度は高度研究棟の着工や、工事備品 6 品目、機能強化備品 18 品目、更新備品 53 品目などの整備を進めています。さらに、感染症情報センターや精度管理部門の充実強化にも取り組んでいます。これからもさいたま市、川越市と、また、地方衛生研究所間の連携・情報交換を密にし、埼玉県衛生研究所の機能強化・充実に努めてまいります。

ここに平成 25 年度の埼玉県衛生研究所報がまとまりましたのでお届けします。本号は業務報告・研修業務等の他、研究事業報告 4 編、調査研究 3 編、資料 12 編、雑誌等の紹介 9 編、口演等の紹介 42 編などを収録しています。これらは、当研究所における 1 年間の業務及び研究の記録としてだけでなく、これからの衛生研究所の糧となるものと思っています。本誌をご活用いただき、御意見・御批判をいただければ幸いです。また、平成 26 年 4 月以降、機会がありましたら是非、移転し機能強化された新埼玉県衛生研究所をご覧いただきたいと思います。

平成 25 年 12 月

埼玉県衛生研究所

所 長 大村 外志隆